



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

木津川ダム群

フラッシュ放流による 河川環境改善

フラッシュ放流とは

木津川ダム総合管理所では、高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、布目ダム及び比奈知ダムの5ダムを管理しています。

フラッシュ放流とは、一時的にダムの放流量を増やすことで、河床の石などに付着した泥や藻類等を剥離させ、河床をリフレッシュし、河川に生息する魚類などの生物にとって良好な環境への改善を目指すもので、木津川ダム群ではダムの運用において梅雨や台風に合わせて水位を下げる際の水を利用して実施しています。

木津川ダム総合管理所が管理するダムにおいては、平成14年度より実施しており、近年では平成28年5月10日に名張川の青蓮寺ダム、室生ダム及び比奈知ダム（最大放流量は各々約30m³/s）の3ダムで実施し、平成29年5月9日には高山ダム（最大放流量は約40m³/s）で、5月11日には比奈知ダム（最大放流量は約30m³/s）で実施しました。なお、高山ダムではクレストゲートの点検放流を兼ねて実施し、クレストゲートからの放流は約35年ぶりでした。



高山ダムのフラッシュ放流（クレストゲートからの放流）

河川環境の改善効果について

今年度のフラッシュ放流により、高山ダム下流や比奈知ダム下流では、付着藻類等の掃流などが確認されました。また、比奈知ダムのフラッシュ放流では、河川流量の増加に合わせ一時的に、クロロフィルa^{*}などが増大する傾向が確認されました。これは河床がリフレッシュされ、河川環境が改善されたものと考えています。

今後とも地域のみなさま、関係機関のみなさまと共に河川環境の改善を目指し、フラッシュ放流を継続していきます。

* クロロフィルaはすべての高等植物及び藻類に含まれるクロロフィルで、植物プランクトンの現存量などを推定する指標となり、付着藻類等の掃流効果の目安となると考えています。



フラッシュ放流前の河床状況（大屋戸地点）



フラッシュ放流後の河床状況（大屋戸地点）